

❀ 退職の辞

入所からもう30年も経ったのかというのが、率直な感想です。2年10ヶ月間の平城宮跡発掘調査部(当時)時代を除くと、情報関係と国際関係にずっと従事してきました。いろいろな国で発掘調査や研修事業に参加できたことは、入所当初は想像もしていなかった貴重な体験でした。イースター島でモアイの足もと(多くのモアイには脚の表現はありませんが)を掘りました。そう言えば東大寺南大門の仁王像の足もとも発掘しました。カンボジアでは、タニの窯跡と西トップ遺跡の調査に参加しました。ミャンマーでは、研修事業に携わり、窯跡の発掘もお手伝いしました。また、キルギスで都城跡の調査を経験しました。しかし、何よりもアフガニスタンのバーミヤーンで、ストゥーパなどを発掘したことが思い出されます。同じ国を何度も訪れることで、一過性ではない人の付き合いが生まれ、それが長く維持されながらつながって発展していくというのを経験できたことは、私個人にとっての大きな糧であると同時に研究所の資産ともなったものと思います。いろいろな世界を見せていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。(企画調整部 森本 晋)

❀ 振り返ってみて

1982年11月、奈良文化財研究所の飛鳥資料館庶務室係員に採用され、私の公務員生活が始まりました。これまでの36年半を大過なく過ごすことができ、奈文研のほか京都大学、奈良教育大学、同じ機構内のアジア太平洋無形文化遺産研究センターと12年間勤務いたしました。それぞれの職場で多くの方々から多くのことをご教示、ご指導いただきました。誠にありがとうございました。

これまで在職した中で、奈文研、とくに都城発掘調査部の勤務が一番長く、私にとってはとても居心地の良い職場でありました。また、キトラ古墳、高松塚古墳の発掘調査では、普段の事務仕事とは異なる貴重な体験を得ることができ、当時の異部長とは、石室解体のときは一日の発掘調査が終わるのをよく遅くまで残って待っていたことが思い出されます。他機関での勤務では、医学部・附属病院で従事する中で日常生活でも役立つ知識を多く得られました。

海外出張では、韓国、カンボジアへ赴き仕事のほかに現地で美味しい食事や体験ができ、楽しいものでした。

これまで仕事で一緒にさせていただきました方々に、心より御礼申し上げます。

(研究支援推進部 松本 正典)

❀ 奈文研の一員としての9年間

平城遷都1300年の前年。2009年10月に、私は奈良文化財研究所に赴任しました。中途採用ということもあって新人挨拶の場は無く、いつの間にか奈文研にいたと思われたことでしょう。

私個人的には奈良時代が大好きでしたので、平城宮の隣で仕事ができるのが嬉しくもあり、不安でもありました。嬉しいというのは、奈文研の一員となって奈良時代の生の遺物に出会える機会があるであろうこと。実際に多数の生の遺物を見させていただきました。不安というのは、私が着任した当時の係名称が「図書・情報係」で、着任するまで「・」の意味が分かりませんでした。図書の情報に関する業務と勝手に理解していたのですが、図書とは無関係の本当のネットワーク業務だということに驚き、先行きが不安でいっぱいでした。情報に関する言葉も意味も理解できず、通勤時に吐き気をもよおしながら、前任者やネットワーク業者に恥も外聞も無く聞きまくる毎日を過ごし、ようやく奈文研のネットワーク構成を頭にたたき込みました。図書の仕事は係の人たちの方が上司でしたので、ことなきを得てきました。

奈文研では、大学図書館では味わうことのできない人との和、歴史の発掘に触れられたことに感謝です。

(研究支援推進部 渡 勝弥)



森本部長・渡補佐・松本補佐(左から)